

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795200027		
法人名	社会福祉法人 なみはや		
事業所名	グループホーム桜ノ宮なごみ(Aユニット)		
所在地	大阪府大阪市都島区中野町1-12-11 アロンディール桜ノ宮3F		
自己評価作成日	平成22年6月14日	評価結果市町村受理日	平成22年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2795200027&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年6月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の個々にあったサービスの取り組み。 ・1日の過ごし方に力を入れている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該ホームは大川沿いに建つマンションの3階部分のワンフロアを2つのユニットに区切り、それぞれの利用者の個性を大切に特徴を活かした暮らしを支援しています。リビングや廊下は明るく広く、天窓もあり、開設1年半ということもあって、清潔感があり、トイレの位置や防火設備などハード面が整備されています。利用者の方々の身体状況は様々ですが、ホームとして排泄の自立支援に熱心に取り組み、排泄リズムを把握し、それに合わせたトイレ誘導により、全員の方が日中はオムツを使用せずに生活できるところまで回復されるという、自立支援が成されています。その根底にはプライバシーの保護や尊厳の重視であり、職員はケア指針を基に常にその方のあるべき姿を話し合い、家族や地域との関係を大切に、多くの意見や要望に耳を傾け、その人らしい暮らしに寄り添う支援に努めています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々努力している所である。	地域とのふれあいを通じて「すべての人の尊厳を大切にすること」というホーム独自の理念を作り、ケアの指針と共に事務所に掲示しています。申し送りやミーティングで伝え合い、意識付けをしながら、理念の実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントなどに出来るだけ参加するようにしている。	職員が自治会婦人部に尋ねたり、地域からの声かけやチラシでイベントの情報を得て、民謡や夜店など積極的に行事に参加しています。毎月の絵手紙教室、ボランティアのコーラス、散歩時の挨拶などで日常的に地域の方々と関わりを持っています。地域貢献として、介護の電話相談を請け負ったり、中学校の体験実習の受け入りを申し出などを行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方にも移乗時の段差など手を借りたり、散歩の際のあいさつをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な問題点を早期解決できるよう話し合う時間をもち、報告している。	家族、自治会会長、婦人部、民生委員、地域包括支援センター、理事長、職員などが出席し、2カ月に1回開催しています。家族からの意見や感想が毎回多く出され、防災について地域の方と話し合うなど、多くの参加者を得て活発で有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる		家族から制度的な相談があった場合や日頃の疑問について、区役所の担当者へ電話をして質問したり、介護保険の更新時等に直接伺い声かけを行っています。今後は運営推進会議への参加依頼を予定しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は一切しないケアに努めている。	職員の入職時に身体拘束について話をしています。1階の玄関は開錠され、現在ユニット入り口は家族に了承を得て施錠されていますが、希望があればその場で開錠し、職員が付き添い自由に外出してもらっています。イベント時も開放し、ユニット間でいつでも行き来できる状態になっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いや身振りなどにも注意を払っている。		

グループホーム桜ノ宮なごみ(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込み時、契約時に丁寧に説明を心がけている。利用に際しての詳細など。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に関しては、全家族様への声かけを行い、会議内では、こちらから参加された方に伺うようにしている。	各利用者の担当職員が、写真や様子を載せた手書きの新聞を毎月発行しています。日頃の利用者の意見、要望は担当者が聴き、職員と話し合ったり介護計画と一緒に考えたりしています。家族の来訪が多く、面談時に要望や相談を受けています。また運営推進会議は多くの家族の方に出席して頂き、意見をいただき、内容は職員全員に発信しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員同士での意見交換をして、決定事項を反映させている。	月に1度全員参加のフロア会議を開催しています。事前に提案した議題について考えを記載してもらい、それをもとに一人ずつ意見を出し合い、利用者の生活や介護について話し合っています。管理者やフロアリーダーは職員の様子を見て声かけを行ったり、昼食を共にするなど、意見を出しやすい雰囲気作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同グループホーム内同士での研修など行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加など少しづつ力をいれている。		

グループホーム桜ノ宮なごみ(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人より、たくさん話を聴いて、本人の言葉を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に多く来てもらうように声かけをして、その際に随時お話をして常に信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らしているように援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には1つでも多く本人様の状況を伝え、情報を共有できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人と外出されたり、いつ来所して頂いてもよいように支援に努めている。	日常的に利用者の友人や、身内の方が訪ねて来られる事が多く、希望があれば一緒に外出して頂いています。美容院や神社参拝、家族行事の参加など、入居前の習慣や馴染みの関係を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ったり、全員で誕生日パーティーなど行っている。		

グループホーム桜ノ宮なごみ(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後のご相談などの対応を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な場合でも家族の意見や昔のアルバムをみて検討している。	個々の生活歴を重視しながら、その方にあった声のかけ方や接し方を工夫し、自然に希望が出しやすい雰囲気作りを心がけています。意思の疎通が難しい方には家族から聴き、アセスメントシートの追記や申し送りノートで職員間で共有し、意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人にあったその人らしい暮らし方に気を配っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を聞きだし、一緒に出来る方は本人と介護計画を作っている。	フロア会議や日々の変化で気付いた職員の意見、利用者、家族の希望をまとめ、本人本位の介護計画を作成しています。計画は三ヶ月に一度見直され、随時の変化があった場合は都度変更しています。前回の外部評価を受けて、計画と介護日誌が連動できる書式に改訂しましたが、モニタリングにつながる記録になる様、現在も検討しています。	計画の見直しの基となるモニタリングと評価の記録が明確ではないので、日々の日誌と個々の支援プログラムを活かした更新や、新しい計画作成のシステムの構築が期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の意見を大切にし、お試し期間を作り、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意見・家族の意見を聞きながら改善に努めている。		

グループホーム桜ノ宮なごみ(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、医師に日常の様子など詳しく説明して、相談している。	入居時にかかりつけ医の希望を伺っています。現在は全員が協力医を希望され、週1回の往診があり、24時間医療連携が取れる体制になっています。必要な方には訪問看護や理学療法士が往診しています。専門医の受診も家族の対応で行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回と電話にて連絡をとりあい、その日その場にあつた対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、職員1人つけるようにしている事と病院側と密に連携を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族全員の意見と本人の希望に添えるよう対応している。	入居時にホーム緊急時の対応と延命措置についての書面を渡し説明し、理解を得ています。重度化した場合はターミナルケアについて病院と家族も含めて話し合い、方向性を決めています。ターミナルケアの経験はありますが、利用者の状態や職員の成熟度により不安もあり、今後も研修や会議で話し合いを重ね、方針の共有を図りたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	随時の非難訓練の際に様座な状況を想定して、各職員にイメージして貰うように促して訓練を行っている。	年2回昼夜想定で避難訓練を実施し、その内1回は消防署立ち合いのもと行っています。ホームにはスプリンクラーが設置され、各居室に避難経路を掲示し定期的な消火器の点検もなされています。開設からまだ年数が浅く、ホームの立地条件的にも地域との協力体制は難しい状況にあります。	運営推進会議で提案し、訓練を見て頂き、避難経路や救助の様子を知って頂くことから始められてはいかがでしょうか。またAEDの講習会を行うなど地域の方に集まってもらい、関心を持って頂く機会を設けられてはいかがでしょうか。

グループホーム桜ノ宮なごみ(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まずご本人を理解する。次に同感するように努めている。	一人ひとりが満足する声かけや呼び方を考えて支援しています。呼称などは家族に伝え了承を得ています。職員はプライバシー保護の研修を充分に行い、特に入浴やトイレ介助には細心の注意を払っています。新任職員などで不適切な対応があった場合は、管理者やリーダーが個別に声をかけ理解や改善に繋げています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらの意見を先に言うのではなく、言って貰えるまで待つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	楽しい一日となるように声かけし、了承を得て援助するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝にモーニングケアを取り入れている。外出時などの際にご家族が衣類を持ってきて下さったり、本人の希望をきいて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味見や盛り付け、材料切りなど出来る限り行っている。	業者の栄養士が献立を作成していますが、細かな調理の希望は毎日利用者に伺っています。月1回は行事食、隔週でおやつ作りを取り入れ変化のある楽しい団欒の時間を大切にしています。調理の下ごしらえや盛り付け等できることを一緒に行い、職員も同じ食卓で同じものを摂り、家庭的な食事の雰囲気づくりに配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表をつけながら確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実践している。		

グループホーム桜ノ宮なごみ(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけを増やしつつ、本人希望時と定期的な時間でのトイレ誘導を行っている。	ホームとして排泄の自立支援に力を注いでいます。個々の排泄パターンを把握し、それに合ったトイレ誘導を行うことで、入居時や退院時はオムツであった方も日中はオムツを使用せず布パンツで過ごして頂けるようになり自立へと導いています。歩行が難しい方にもリハビリを兼ねて職員が歩行誘導し、羞恥心への配慮を心がけながらトイレで排泄する心地よさを感じて頂いています。また、下剤は使わず飲み物等を工夫するようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホットミルクやマッサージなど随時の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている		月曜～土曜日で週2回の入浴となっていますが、終日入浴できる準備が整い、日曜日などの希望の曜日や時間があれば対応できるようになっています。入浴拒否の方には無理強いせず、日を変えたり、清拭で対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声かけや様子の違いに日々気をつけながら疲れないイスやソファでなるべく車椅子に乗っている時間を減らしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	週1回の往診と週3回の訪問看護と相談しながら、対応できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いや洗濯たたみなどその方にあった声かけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出イベントなどは、なるべく利用者の声を聞き取り入れている。	日常的に向かいの公園や、買い物、喫茶店等に出かけています。また個別の対応としては、外食や区役所へは職員が同行しています。2カ月に1回外出行事があり、水族館や美術館へ出かけたり、同法人のグループホームと合同で遠方の日帰り旅行も実施されています。	

グループホーム桜ノ宮なごみ(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名は自己管理されており、他の方も金庫で保管し、外出時などに支払って貰っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴える内容や時間により、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間や日付を分かりやすくしている。	季節を感じられる飾りつけや、絵手紙教室の作品が雰囲気良く飾られています。リビングの空間を広げた机の配置や、ソファの向きを工夫し、各ユニットの利用者の状態に合わせて生活しやすく安心できる空間作りに配慮しています。車椅子の方もソファに移ったり、歩行介助などで、できるだけ動きのある生活を支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お茶をしながら、話せる時間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全性にも気をつけながら、出来る限り自宅で過ごしていた様に家族と相談している。	洗面台、クローゼット、ベッドは備え付けになっています。希望があれば畳の対応も可能です。タンスや鏡台、写真など、その方の馴染みの品を多く持ってきて頂くよう家族に依頼しています。居室の入り口には職員が描いた利用者の似顔絵が飾られ、親しみやすく温かい雰囲気づくりに配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人にあった居室を作り、必要時に部屋を変えたり行っている。		